

都市再生整備計画 事後評価シート

常陸太田市中心市街地地区

平成23年3月

茨城県常陸太田市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	茨城県	市町村名	常陸太田市	地区名	常陸太田市中心市街地地区			面積	370ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	1,431	国費率	0.363						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路:市道0103号線,市道0119号線,市道2015号線 地域生活基盤施設:駅前駐車場										
		提案事業	まちづくり活動推進事業:市民バス運行,まつり・イベント開催,空き店舗活用,宅配・買物代行サービス,自警団設立										
		事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標,指標,数値目標への影響						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路:停車場増井西線(駅前広場) 公園:(仮)くじらが丘公園 地域生活基盤施設:駅前駐輪場		(仮)くじらが丘公園:地域生活基盤整備事業へ組替え その他:事業の具体化に伴い,事業計画を変更		影響なし						
		提案事業	事業活用調査:駅周辺基本設計・測量・実施設計 まちづくり活動推進事業:観光施設運営		駅周辺基本設計・測量・実施設計:事業の具体化に伴い,事業計画を変更 観光施設運営:市単独事業への移行により変更		中心市街地に関する満足度,歩行者の通行量,市民バスの利用者数,JR常陸太田駅利用者数の指標に関連するが,数値目標は据え置く。						
	新たに追加した事業	基幹事業	道路:停車場増井線,常陸太田駅前通り線(駅前広場),市道2317号線 地域生活基盤施設:駅西広場,鯨ヶ丘ふれあい広場 街なみ環境整備事業:通り塩町地区		鯨ヶ丘ふれあい広場:公園事業から移行 通り塩町地区:補助事業(国)からの移行により追加 その他:事業の具体化に伴い,事業計画を変更		駅周辺整備事業の具体化に伴い,JR常陸太田駅利用者数の指標を追加。						
		提案事業	事業活用調査:駅周辺基本設計・測量 地域創造支援事業:駅舎整備・鉄道移設工事		事業の具体化に伴い,事業計画を変更		駅周辺整備事業の具体化に伴い,JR常陸太田駅利用者数の指標を追加。						
	交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業,指標,数値目標への影響								
変更													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	中心市街地に関する満足度	%	13.6	H17	30	H 2 2	-	58.5	○	あり なし	中心市街地については,市の玄関口として駅周辺が整備されることや,空き店舗を活用したチャレンジショップの営業,まつりイベントの開催,鯨ヶ丘ふれあい広場等の整備等により,徐々に活性化の兆しが見られるとして,「概ね満足」との声が多く,目標を達成することができた。	H23.6
	指標2	歩行者の通行量	人/10時間	600	H17 (H16実績)	680	H 2 2	-	482 (H21計測値)	×	あり なし	計測地点のある鯨ヶ丘商店街では,空き店舗を活用したチャレンジショップの営業,まつりイベントの開催,鯨ヶ丘ふれあい広場を活用した定期的なイベントの開催などにより,土日を中心に回遊者も増え,賑わいの兆しは見られるようになってきている。しかし,そうした賑わいづくりによる商店街の活性化を進める一方,既存商店の閉店には歯止めがかかっていないこと。近隣の高校に通う高校生のうち,鯨ヶ丘商店街を通る高校生が減ったこと(新規の商業地区を通るようになった。生徒数が減少。)などにより,イベントなどのない平日については,歩行者数が減っていると考えられる。	H23.6
	指標3	市民バスの利用者数	人/年	45,000	H17 (H16実績)	47,000	H 2 2	43,751 (H20実績値)	42,676 (H21実績値)	×	あり なし	市民バスの利用者については,平成15年度より順調に増加していたが,平成21年1月のコース拡充に伴い運賃を改定したことにより(無料から1乗車200円に有料化),平成20年度は大きく落ち込んだ。また,平成21年4月から,市の公共交通政策の一環として市民バスを補完するため,市乗合タクシーの本格運行を開始したが,それにより利用者が分散し,市民バス単独では利用者が減少したと考えられる。	H24.6
	指標4	JR常陸太田駅利用者数	人/日	2,612	H17	3,260	H 2 2	2,468 (H20実績値)	2,342 (H22推計値)	×	あり なし	近年,JR水郡線常陸太田駅の利用者数は,減少傾向にある。しかし,市の人口と比較してみると,人口も近年減少しており,人口に対する利用者の割合はほとんど減っていないことから,利用者の減少は人口減少による影響が大きいとみられ,実質の利用者数はほぼ横ばいと考えられる。また,利用者には通学者が多いことから,指標2と同様,近年の生徒数の減少等も影響していると考えられる。	H24.9

	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	イベントの入込客数	人/年	44,600	H17			69,500 (H21実績値)				高台の既存商店街(鯨ヶ丘商店街)については、鯨ヶ丘ふれあい広場の整備等をきっかけに、活性化の兆しが見られ、平成19年度から常陸太田秋まつり(旧産業文化祭)のメイン会場となった。常陸太田秋まつりの開催により、平成17年度は44,600人だった「中心市街地で開催されるイベントの入込客数」は、ピーク時の平成19年度には85,500人、平成21年度も69,500人と、事業実施前と比べると増加している。	H24.6
	その他の数値指標2	市民バス及び乗合タクシーの利用者数	人/年	45,000	H17 (H16実績)			46,798 (H20実績値)	48,059 (H21実績値)			市民バスは、H20.1月のコース拡充に伴い運賃を改定したことにより(無料から1乗車200円に有料化)、利用者が落ちこんだが、市民バスを補完する意味で運行を開始した市乗合タクシーは、H19、H20の試行運行、H21.4月からの本格運行を通して、利用者は順調に伸びている。平成21年度の市民バスと市乗合タクシーの利用者数を合算すると48,059人となり、当初、「指標3:市民バスの利用者数」で目標としていた47,000人を上回っており、市民の足の確保という課題については、徐々に改善されつつあると考えられる。	H24.6
	その他の数値指標3	刑法犯認知件数	件/年	624	H17 (年)			431 (H21実績値)				自警団の設立支援を進めたことにより、H21年度には延べ30団体が設置されている。それに伴い、常陸太田市内の刑法犯認知件数もH17年度と比較すると大幅に減少している(約31%)。	H23.6
	その他の数値指標4	郷土資料館来館者数	人/年	3,361	H17			10,543 (H21実績値)				高台の既存商店街(鯨ヶ丘商店街)においては、空き店舗を活用したチャレンジショップの営業、まつりイベントの開催、鯨ヶ丘ふれあい広場等の整備等が進むとともに、歴史的町並みを活かした鯨ヶ丘散策マップ等も作成されたことにより、土日を中心に回遊する人が増え、それに伴い、当該地区に位置する郷土資料館の来館者数も増加している。	H24.6
4)定性的な効果発現状況	・中心市街地地区内の高台の既存商店街地区(鯨ヶ丘商店街)では、空き店舗を活用した飲食店や雑貨店の出店、スロータウンをテーマに旧暦の行事に合わせたお祭りの開催など、佐竹氏の城下町として栄えた歴史ある町並みを活かした様々な取組が行われるようになり、活気がでてきたと市民からも声が上がっている。また、鯨ヶ丘ふれあい広場においては、整備後、地元グループによる維持管理が行われているとともに、定期的に夜市が開催され、必要に応じステージ等が設置されイベント会場として使用されるようになるなど、にぎわいが見られるようになった。坂や蔵のある町並みを活かした鯨ヶ丘散策マップ等も作成され、土日を中心に当該地区を回遊する人が見られるようになった。 ・市道整備の完了により、轍ぼれ等が解消され、水はねや乗り心地が改善された。 ・JR常陸太田駅周辺整備に関しては地元住民・高校生等を含むワーキンググループを設置し、駅舎、駅前広場の利活用についての意見を集約し、常陸太田駅周辺地区整備計画策定委員会に提案を行った。これにより、誰もが利用しやすい、親しみのある駅として、利用者数の増加が期待される。(風土・歴史に調和した、環境にやさしい駅、安全・安心なバリアフリー設計) ・整備完了後、駅周辺に新規企業が立地予定であり、駅周辺地域の活性化が期待される。また、交差点の形状の改善により、通行がスムーズになるとともに、駐輪場が整備されることから、放置自転車数の減少が期待される。 ・市民バスのコース拡充、市民バス補完のため開始した市乗合タクシーの運行により、市内の交通格差が軽減された。市内の公共交通の問題については、現在、市において、市民バス、市乗合タクシーのほか、JR水郡線、路線バスなども含めて、一体的に検討がなされているところであり、今後、更なる利便性の向上に向け、整理していく。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		市民バス実績集計によるモニタリング JR東日本の駅ごとの乗車人数集計によるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 必要に応じて、今後も継続的に数値を把握・評価する。		
	住民参加プロセス		駅舎、駅前広場の利活用を目的として、高校生、地元住民等の意見をとりいれるためワーキングを設置。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 利用者や地域住民の意見を取り入れながら、中心市街地の整備を推進していくことにより、満足度の向上を目指す。		
	持続的なまちづくり体制の構築		鯨ヶ丘ふれあい広場の維持管理を行う地区内の地元グループを支援。「自らの街の安全は自ら守る」考えのもと、地域コミュニティを活かした自警団の設立を支援。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も継続して活動できるよう支援を行う。		

様式2-2 地区の概要

常陸太田市中心市街地地区（茨城県常陸太田市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
新市の顔となる中心市街地の活性化 ・目標1：市民や来訪者の交流と活動を促進し、市民との協働による賑わいづくりと地域間ネットワークの核となる中心市街地を創出する。 ・目標2：地域住民が安心・安全・快適に暮らせる生活環境を創出する。		中心市街地に関する満足度	単位：％	13.6	H17	30	H22	58.5	H22
		歩行者の通行量	単位：人／10時間	600	H17 (H16実績)	680	H22	482	H22
		市民バスの利用者数	単位：人／年	45,000	H17 (H16実績)	47,000	H22	42,676	H22
		JR常陸太田駅利用者数	単位：人／日	2,612	H17	3,260	H22	2,342	H22
		イベントの入込客数	単位：人／年	44,600	H17	-	H	69,500	H22
		市民バス及び乗合タクシーの利用者数	単位：人／年	45,000	H17 (H16実績)	-	H	48,059	H22
		刑法犯認知件数	単位：件／年	624	H17(年)	-	H	431	H22
		郷土資料館来館者数	単位：人／年	3,361	H17	-	H	10,543	H22



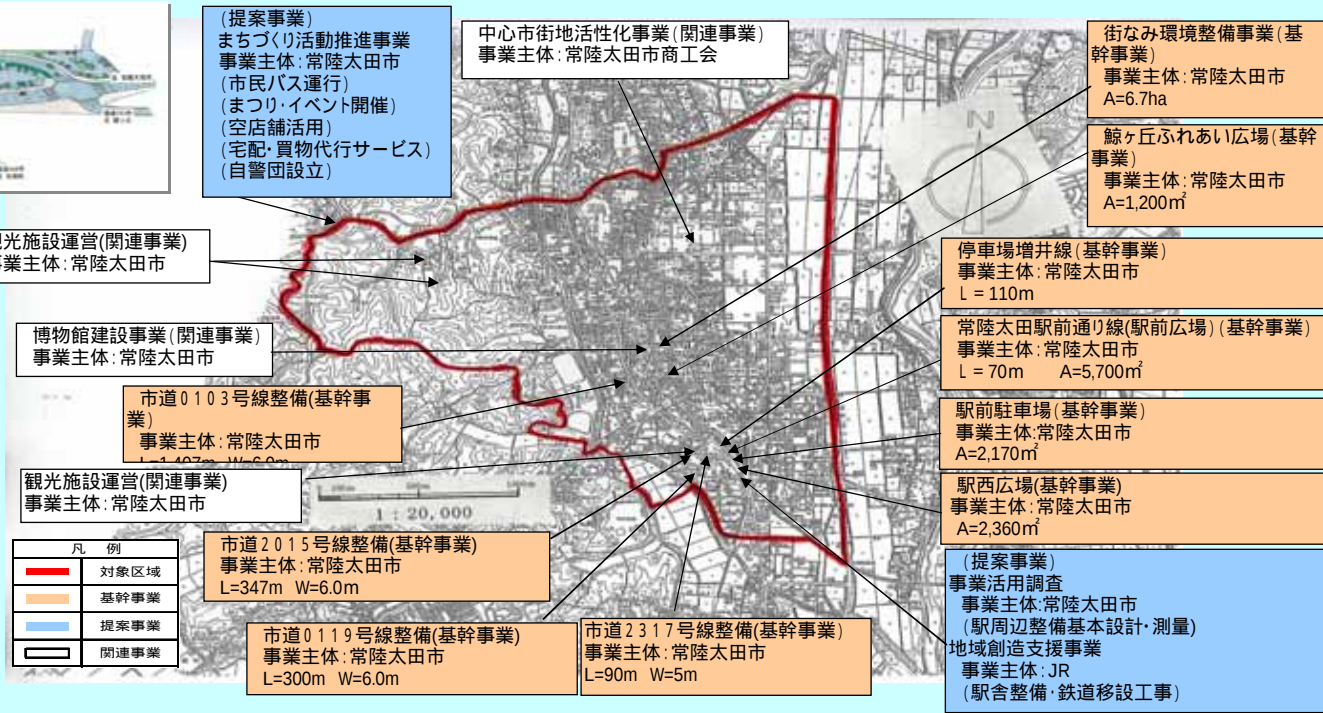
常陸太田駅周辺整備事業完成予想図



市民バスの運行



空店舗活用



（提案事業）
まちづくり活動推進事業
事業主体：常陸太田市
（市民バス運行）
（まつり・イベント開催）
（空店舗活用）
（宅配・買物代行サービス）
（自警団設立）

中心市街地活性化事業（関連事業）
事業主体：常陸太田市商工会

街なみ環境整備事業（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
A=6.7ha

鯨ヶ丘ふれあい広場（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
A=1,200㎡

観光施設運営（関連事業）
事業主体：常陸太田市

博物館建設事業（関連事業）
事業主体：常陸太田市

市道0103号線整備（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
L=1497m W=6.0m

市道2015号線整備（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
L=347m W=6.0m

市道0119号線整備（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
L=300m W=6.0m

市道2317号線整備（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
L=90m W=5m

停車場増井線（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
L=110m

常陸太田駅前通り線（駅前広場）（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
L=70m A=5,700㎡

駅前駐車場（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
A=2,170㎡

駅西広場（基幹事業）
事業主体：常陸太田市
A=2,360㎡

（提案事業）
事業活用調査
事業主体：常陸太田市
（駅周辺整備基本設計・測量）
地域創造支援事業
事業主体：JR
（駅舎整備・鉄道移設工事）

1：20,000



鯨ヶ丘ふれあい広場の整備



まつり・イベントの開催



自警団設立

まちの課題の変化

- ・駐車場やバスターミナル等の整備については、順調に整備が進展している。常陸太田駅前交差点（国道293号と国道349号が交差）についても、整備が進み、通行をスムーズにするための形状改善が図られている。
- ・市道整備の完了により、轍ぼれ等が解消され、水はねや乗り心地が改善された。
- ・市内各地区と中心市街地を結ぶ市民バスが運行されている。また、平成21年4月より、市民バスを補完する意味で、市乗合タクシーも本格運行を開始した。これらにより、市民の日常生活の足の確保という問題については、徐々に改善されつつある。
- ・高台の既存商店街（鯨ヶ丘）では、周辺道路の整備や市民バスの運行、平成19年度の常陸太田秋まつり開催、空き店舗を活用したチャレンジショップの営業、鯨ヶ丘ふれあい広場の整備などをきっかけに、広場を中心に夜市・ひなまつりなどの商店街が主体となったイベントが定期的開催されるようになるなど、徐々に活性化の兆しが見られる。また、歴史的町並みを活かした鯨ヶ丘散策マップ等も作成され、土日を中心に当該地区を回遊する人が見られるようになった。
- ・駅周辺整備工事後、利用者の利便性向上や安全確保の面から、歩行者・自転車・自動車などの動線の確認、聞き取り調査等を行い、適宜対応策を考え、改良を加えていく必要がある。
- ・人口減少が進む中、JR常陸太田駅について、市内のほかのJRの駅と併せ、一体的に利用促進を図っていく必要がある。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- ・常陸太田駅前交差点（国道293号と国道349号が交差）の形状については、本事業に伴い、整備が進み改善が図られているが、本事業終了後も、整備が完了しないため、完全に交通負荷が解消するわけではない。引き続き、事業主体である県に対して、整備促進を働きかけていく必要がある。
- ・市民バス、市乗合タクシーの運行等により市民の交通手段は整備されつつあるが、市内のほかの公共交通機関であるJR水郡線、路線バスなどと併せて、回遊性の向上など更なる利用者の利便性向上のため、一体的に交通体系を整理していく必要がある。
- ・高台の既存商店街（鯨ヶ丘）では、徐々に活性化の兆しが見られるものの、歩行者数が減少している状況から、駅前周辺地区、新規の商業地区との連携をはかりながら、商店街の空き店舗の利活用推進、商店会の活動支援（高校生や中学生などのたまり場づくり支援、イベント開催支援など）、効果的なPRなどを行っていく必要がある。
- ・中心市街地の整備にあたっては、鯨ヶ丘の街並みや特色ある「坂」を活用するなど周囲の景観にも配慮した整備が必要と思われる。